

三条市教育制度等検討委員会最終報告 地域説明会記録（第一中学校区）

- 1 日 時 平成20年6月5日（木）午後7時～午後9時18分
- 2 会 場 総合福祉センター 多目的ホール
- 3 参加者数 65人
- 4 報道機関 UX21、越後ジャーナル
- 5 教育委員会出席者
梨本教育委員長 松永教育長 古川教育部長、池浦教育総務課長、駒澤学校教育課長
- 6 説明会次第
 - (1) 開会あいさつ 梨本教育委員長
 - (2) 最終報告説明 池浦教育総務課長
 - (3) 質疑、意見等
 - (4) 閉会あいさつ 松永教育長
- 7 質疑、意見等の概要

発言者A

- ① **児童数の減少** 三条市教育制度等検討委員会最終報告の8ページに、小学校は24校のうち15校が、中学校は9校のうち7校が国の基準で示す適正規模に満たない、また1学年2学級以上の学級数が必要とある。なぜ、小中一貫教育が急がれるのか。今年の三条小学校の入学数が17～18人程度と報道されていた。そういう問題の方が先ではないのか。
- ② **今後の地域説明** 第一中学校学区には1,645名の児童がいるが、今日来場している人数が70人程度、世帯数では1,000世帯くらいあるとすると、0.7%くらいしか出席していない。22年度から実施したいと書いてあるが、1年半しかない。嵐南地区の皆さんに小学校単位でもう少し踏み込んだ説明をするのか。
- ③ **過去の説明会での意見** また、今日の出席者数を見て教育委員長の所感と過去の各地説明会の中で、どういう意見があったか聞きたい。

発言者B

- ④ **一貫教育導入の理由** 小学校教育の充実と中学校教育の充実ではなく、なぜ小中一貫教育なのか。

教育総務課長

- ② より多くの方々に来ていただくために、4月25日の自治会長協議会総会、5月13日の市長定例記者会見、またホームページにより地域説明会開催の周知を行ってきた。
皆様から意見をいただき三条市としての方向性が定まっていく。具体的なことは地域の皆様、学校現場の皆様、それぞれ地域で話し合いをさせていただきながら決定されていく。地域の皆様、学校現場の皆様と一緒に議論をしながら進めていきたい。

学校教育課長

- ④ なぜ、小中一貫教育なのかについて説明する。
今、学校現場では様々な課題を抱えている。不登校の問題、学力の問題、いじめの問題など

がある。そういう問題をなんとか解決していかなければならない。

義務教育の中で、子どもたちに夢や希望を与えられるような三条の子どもたちを育てたいという強い思いから、子どもたちが自分の学校生活を充実させられるように、学校は地域と一体となって取り組んできたが、まだ問題がある。もっといい方法はないだろうかという話の中で、義務教育9年間の指導する課程において、より発達段階に応じて丁寧な指導ができないか。今までは小学校6年間、中学校3年間で切れてしまっている。そこを切れないように、指導を連動させようではないかという思いで答申を受けたのが、この小中一貫教育と受け止めている。

教育部長

- ③ 今までの説明会での質問については、「卒業証書は小中一貫教育になった場合、最後の9年生でもらうことになるのか」という質問があった。これは現行の小中学校の制度を変えるわけではないので、小学校6年生、中学校3年生卒業時にもらうことになる。

「制服はどうなるのか」という質問に対しては、導入された後に、地域の皆様の意見を聴きながら学校が決めていくことになる。

「子どもが移動することなどによって負担になるのでは」、また「教員にとっても負担になるのではないか」という質問については、小中一貫教育は、一体型、連携型などがあり、また小学校が複数ある地区と1校しかない地区もあり、様々なやり方がある。子どもが部活動で交流する、先生が教室に2人で入って指導する等、様々な形態がある。小中一貫教育をやらなくてはいけないということで、子どもに過度の負担になっては本末転倒である。先生方がカリキュラムを組む際に十分に認識いただきながら進められていくべきものである。

「教員が増えるのか」という質問ですが、中学校の先生が小学校で授業するということが想定されるため、小学校に移動することなどにより時間的にも物理的にも負担が増すと考えられる。教員の人事は県が行っているので、教員の増員についてもしっかりと要望していきたい。先生方の負担となって、所期の目的である中1ギャップ問題等の小中一貫教育のメリットが損なわれることのないように配慮していく。これは教育委員会の仕事でもある。先進地域の視察に行ったが、教育委員会が決めて後は学校任せということでなく、教育委員会と学校が一緒になって行っているのが印象的だった。

教育委員長

- ② 0.7%ぐらいの出席者が多いか少ないかという質問があったが、その人の立場や見方によって様々に違いがあると思う。発言者の方は少ないということで発言されたと思われるが、私は多いと思い、熱心な方がいっぱい来られてありがたく感じている。

今、私どもは地域を回って地域の皆様に説明をさせていただくチームだが、もう一方のチームは学校の先生だけを対象に学校を回っている。その次には各地域の皆様の意見を聴くスケジュールがある。

何事も新しいことを行うときは、なかなか最初から皆様の理解をいただけることはあり得ない。少しずつ理解いただける方々をだんだん増やしていく。これが民主主義だと思う。その中で問題点があったり、それを汲み上げたりしながら少しずつ理解いただける方を増やしていくと良いものを作り上げていく。大変、時間や経費がかかるが、そういう手立てをしていくこと

が民主主義だと思う。三条市民にとって新しいことが、こんなに集まっていただいて、ここからスタートする。この嵐南地区はさすがだと感じている。最初に誰かが言い出さなければ進まない。問題点はたくさんあるが、それを解決していくためには誰かが第一歩を踏み出さなければならない。ここからスタートを切ったと理解をいただきたい。

発言者 A

教育委員長は多いと言われたが、私は少ないと思う。小中一貫教育で進むという中で、皆様の意見を聴いた中で修正もあるというが、これは無いに等しいという例が多い。若い人が多くおいでになっていないという現状に対して、教育委員長は少なくとも良いという見解らしい。

スケジュールでは平成22年から実施したいとある。時間的な問題があるのに、学校の先生方には説明しているというが、地区の皆さんに最終報告を説明するのは今日が初めて。パブリックコメントは3、4人意見があったと資料にあるが、現実的には小中一貫教育において東京の都心とは違う。京都府や品川区など話題となっている学校は、先生方の配置権限を持っている。新潟県は県が持っている。

全国的には小中一貫教育の取組は100ちょっとあると聞いているが、現実にはいいものだと強調しているが、小学校が18人しか入らないという実態の中で、先を見ることも大事だが、足元がかえって大事だと思う。三条小学校がマンモス校の時代があった。2、3年後には15人、10人になるかもしれない。田舎の複式授業になろうかという実態。基準を見るといいことが書いてある。新しいことに取り組むことはいいことだが、なかなか難しい。

特に都会と違って、高学歴が求められる時代に、小中一貫教育によって若い親御さんたちに悩みを多く持たせるのではないか。都心なら中高一貫もあり、大学の附属高校もある。そういう問題が解消されない。地方ではなかなか高校選択制がない。そういう問題からすると、多いとか少ないとか皆さんの意見を聴きたいとか言っているが、答ありきで進んでいるとしか思えない。

小規模校の解消 また、0.7%の出席で多いとは見識が無い。多くの方に来てもらう工夫をしてもらいたい。2年くらいでできるわけがないと思う。それよりも、5とか8人の小学校もある。スクールバスなどを活用して学区の編成をして、優秀な先生に来てもらえるようにするということも考えてほしい。先を見ることもいいが、両方進めてほしい。

教育部長

このように地域の皆様から直接意見をいただけることは貴重なことだと思う。まだまだ少ないと感じてられるのは、もっともっと関心を持ってほしいという心持だと思う。1年間かけて小中一貫教育を含めた最終報告をいただいた。非常にしっかりと議論いただいているし、三条市の現状をしっかりととらえられている。先ほど都会の例であるとの話があったが、先進地域に視察に行き、そこでどのような教育がされているか、また三条市との違いは何かといったものを含めて検討されている。

教育は百年の大計と言われている。将来のことをしっかりと見据えながら検討していく必要があると感じている。

中高一貫教育は燕市でも始まっている。また、全国にも広がっている。様々な教育課題に挑

戦する方法があるが、最終報告では解決の糸口を小中一貫教育に求めている。小中一貫教育は100校以上でやっているが、ある意味チャレンジというかトップランナーというかそういったところに私どもも加わるかということ判断していただければと思う。

教育課題というのは、様々な面があって、学校や地域だけが努力すれば良くなるという単純なものではない。社会の問題、マスメディアの問題などもある。今、学校の先生を中心とした学校の組織、地域の皆様方の力をいただきながら、何とかして解決の糸口をたどっていかないといけない。そういう思いを最終報告に感じる。私どもも共感する。皆様も共感していただける部分も多いのではないかと思います。そういった課題は最終的には地域の皆様にしっかりと意見をいただき進めていかなければならないと思うし、導入の是非を検討するに当たっても先ほどのような意見をいただけるのなら、進めていくというのが基本姿勢である。最初に結論ということではなく、このような機会にしっかりと意見をいただきながら進めていくということを前提に話をしていきたい。

発言者C

4月に越後ジャーナルで公開質問状を取り上げてもらった者だ。市議会議員に聞いた教育委員会は無視しているということで話を伺っているけれども。

① **市長の記者会見での発言** 今日の説明会と先ほどの話の中で、今後も意見をお伺いしていくという話だが、5月14日の市長の記者会見の中で、「意見はいただくけれども、最終報告の中身は尊重していく。報告の大きなフレームは変えるとは考えていない」と。これは市民の声を聴くとは取れない。どういう意味か。その点を踏まえて、今日の説明会なり、今後の地域説明会の意義を、自分だけではなくここにいる皆さんに説明されたい。

② **県の取組の公開** 最初、小中一貫教育導入に関心を持ったときは、市長さんは特に不登校の子を問題にしていたので、今日は不登校についてしか調べてこなかったが、教育委員会はこの資料を知っていますよね、新潟県が出しているものだから。

不登校児の解消については、県としては一貫教育だけではなく、連携でも解消できると、たしか平成13年度から平成18年度の4年間で、モデル校というか、強化実施校で取り組み、不登校児の解消について改善の効果が見られたということだが、三条市はそういった情報も一切流していないし、県の動きも市民に知らせていない。なぜ知らせないのか。

情報公開をするというように市長は言っているが、公共事業なり財政なりでこちら側も失望させられているのであまり信頼もしていないが、言っていることとやっていることがおかしくないか。それが地域の意見を聴くという建前とどう整合性が取れるのか。

③ **一貫教育の必要性** 今回の最終報告についての意見ということで、先ほどの説明の中で、一貫教育導入はあくまでも目的ではなく手段であるという話だったが、委員会の最初の段階で検討委員会をどう進めるかについて早々と決めている。議事録に載っている。初めから導入ありきではなかったのか。県の教育委員会と話をして、市長なり三条市の教育委員会の者のどこらへんにあるのかは大体つかめているが、裏が取れてないので、ここで無責任なことを言うつもりはないが、本当に一貫教育が今すぐ必要なことか。

教育部長

- ① この小中一貫教育については、國定市長が非常に関心を持たれていて、教育制度等検討委員会とも、私どもと一緒に考えている。そういった歩みをしている。

市長の発言の真意というのは、内心のことであるので私が市長に代わって代弁するのは難しいが、基本的に私ども教育委員会のスタンスというのはすべて市長に話しているので、基本的なスタンスとしては最終報告について説明して、導入について検討していくということに一貫している。

- ② 先ほど、不登校の情報について開示していないという指摘があったが、県で発表している情報だと思っている。行政というのはそれぞれ役割分担があるので、国の情報、県の情報をすべて私どもの方からHP等で公開しなければならないということではない。ただ、先ほどの指摘のあった資料も参考にしながら、推進しているのは事実である。

小中一貫教育を導入しようと、そうでなかりょうと、不登校児の問題は我が国の、また三条市の喫緊の課題であるので、それについてできる限りのことを様々な工夫で行っていく。その上で、長期的な視野に立って、この小中一貫教育も含めて、研究しながら進めてはどうだという提言をいただいているところである。そのように理解いただければと思う。

教育長

- ② 不登校の問題について、県も中一ギャップというのは大変重く見ており、その解消のために三条市では大崎小学校と大崎中学校が県から指定を受けて、小中連携の研究として、大崎中学校の教員を大崎小学校に派遣するような実践もやった。しかし、不登校の問題についてどれほど効果があったかは、数字的にはなかなか現れていなかったというふうに私は受け止めている。
- ③ それから、最終報告の小中一貫、これは今すぐ必要なものなのかについて。

私どもは今、最終報告を受けた内容を説明しており、その中で小学校の6年間と中学校の3年間の枠を9年間という1つのスパンに入れることによって小学校教育の充実も、中学校教育の充実も、いわゆる義務教育の充実を図っていく。小学校の子供が中学校の子供との交流、あるいは教職員の相互交流、あるいは交換授業や研修会等によって、今まで小学校の中でやっていたものを小と中が一緒になってやる。例えば、小学校の教員が中学校の子供を見る、中学校の教員も小学校の子供を見ることによって、それぞれの教育がより充実していこう。

そういうことを考えたときに、私どもは今まで、中一ギャップの解消についても、努力してきたけれども、成果が目に見えてこなかった。こういうシステムでできるところがあったら、少しずつでもこれから成果が出てくるのではないかという期待を持っている。そういう意味で、今後そのあり方については検討していきたいというスタンスであるのを理解いただきたい。

発言者C

先進校での具体的成果 一貫教育を導入している学校が既に全国で幾つかあるということだが、その中のどこでもいいから学力が向上している事例とか、不登校児が減っている事例をなぜ委員会で見つけてこなかったのか。以前に公開質問でも聞いたが、効果があります、効果がありますじゃなくて、具体的に言ってから理解を求めてください。それとも、理解を求めているというのは、ただ黙って言うことを聞けっていうことか。

あと、教育委員長からもあったが、多くの人々が意見を出し合って進めていくのが民主主義

だと。今回の一貫教育導入については、議事録も全部読んだけれども、少なくとも市民の意見を反映しようという姿勢は皆無だ。実際、先ほどの自分の質問に対する説明でも、市長の意見をいちいち教育委員会で言うことはできないと。ということはもう聴かないということか。

それで施設整備をします、市長は財政状況がよくないから起債します、その負担は我々、どういうことか。質問状にも書いたけれども、そういう具体的な話が一切できずにやりたいというのなら、どうぞ自分たちのポケットマネーでやってください。起債をされて負担を背負わされているのはこちらだ。

具体的な話をしてください。市民の声を聴かないのに、社会人になった自分たち大人が将来に夢も希望も持てないのに、子供が夢も希望も持てると思うか、このまちで。財政や公共事業は分野違いなので答えなくていいので、今すぐ具体的なことを答えてください。

学校教育課長

では、具体例ということで幾つかお話をさせていただきます。

私ども幾つか先進地の視察をしたが、その中の1つで広島の高田というところでは、いじめ、不登校の数が平成14年で20だったのが、17年で11に減っているということがある。あと、中学校に入学するときの不安について、例えば上級生にいじめられるんじゃないかとか、授業についていけなくなるんじゃないかとか、子供はいろいろな不安を抱えていると思う。例えば、勉強の不安は、平成14年では73%だったのが、一貫教育をやって62%ぐらいに下がっている。同じように上級生との関係の不安については、交流を進めてきたことがあるのでしょうが、約41%が約25%に。あと、友達関係で不安を抱えているというのが約40%ぐらいだったのが、グンと下がって10%以下ということで、学校に入るとき不安も少なくなっているという資料をいただいてきた。あと、周りの友達から自分が認められると思うかというような不安が、これもやはり小中一貫導入前と導入後では数が減ってきている。

学力について、品川区の日野学園は、18年度から一貫教育を導入したが、学力の推移として国語を例にすると15年から19年度までの数値では、15年度が48.7、49.8、50.4、51.4、そして導入後は54.5と本当に数値が上がっているというようなこともある。

そして、一番は子供が変わっていく姿を先生方が実感できると、先生も変わってくると、先進校の先生方の声を聞いていると伝わってくる。確かに難儀けれども、やりがいがあると。そんな思いを見てきて、三条市としても、確かに一貫教育がすべての方法であるとは思わないが、こういうところに一つの期待が持てるのではないかということを感じて帰ってきた。

教育部長

先ほど、非常に関心を持っていただいているなど感じた。資料も読んでもらっていて、ありがたく思っている。夢や希望を持てるまちにという思いは、私どもも同感で、「我々の未来のすべてのことが教育にかかっている」というふうに言った哲学者がいるけれども、私どもも夢や希望というのが子供たちの教育をよくすること以外にないという思いでこの報告会を開いているし、そのような厳しい意見であっても、市民の意見を伺ってから進めていかなければならない。それは一貫した姿勢である。またいろいろ皆様から意見をいただきたい。

発言者D

- ① **参加者は不安** 今までの説明会にどれぐらいの方が来るのかと注目していたが、10人くらいとか、中央公民館で35人くらいとか、そこが多かったと聞いている。私はこの一中学区はそんなことは絶対ないと思っていた。というのは、一番不安を思っているのが一中学区の皆さんだと思うからだ。だからちょっと考えただけでも心配だなと思って、ちょっと考えた人がこれだけ集まった。他の人は、三条市というのはやっぱり歴史があって一生懸命やってくれる市だから安心だと思っている市民が普通だと思う。しかし、ちょっと考えてみたらとっても不安だという人が、それだけでこれだけ集まった。いっぱい人が集まったことをやはり喜ばないでいただきたい。
- ② **一中学区の計画** 一中学区は、みんな同じ校舎に小学生を全部集める計画か。ここに書いてある通り実行する計画か。

教育総務課長

- ① 参加者については、今まで7回させていただき、延べ人員として119人で、この一中学区が非常に多い。
- ② 一中学区については、小学校1年生から中学校3年生が同じ校舎で生活を共にする一体型のものかという質問かと思うが、それは先ほどパワーポイントの中でも説明したとおり、今この提言を受けている中身として、一体型のモデル校を目指していくべきであると示されている。

発言者D

大規模校の不安 先ほど三条小学校の児童数のことを心配する話があったが、この一中学区の子供はもちろん減ってはいるけれども、四日町小学校と条南と南小学校を合わせれば、相当の数の生徒がいる。ちょっと問い合わせたが、市の調べでは25年度になってもこの3つの小学校を合計すれば推定で963人の生徒がいる。今現在の生徒は、3つの学校を合わせると1,000人以上だ。そんなにたくさんの生徒を1つの校舎で小学校をやっというお考えか。

教育総務課長

いろいろ批判もあるが、今後一定の方向性が示されれば、地域の方、それから学校現場と十分な議論を重ねた上で、どういう青写真をこれから描いていくか形成されていくものだと思う。

ちなみに、私どもの推計では第一中学校まで含めると平成25年の推計値は1,484人である。そして、どういう形で入るのかということだが、例えば大げさに言えば校舎については、物理的な問題があれば地上10階建てに、地下2階建てにする等いろいろな手法も考えられると思うが、これも今後議論していくことになる。

発言者D

- ① **秋田に学ぶ** 三条市の将来について、この考えと全然違う気持ちでいる。この前、東京に行ったら、電車の中に、秋田に学ぶというのが出ていた。それ何だろうと思ったらどこかの予備校が出しているもので、秋田に学ぶというのは、秋田県の教育に学ぶということらしい。秋田県はどうなっているんだろうと思っていたら、この前朝日新聞社もそれに注目して特集を組んだ。それによると、細かいことは省くが、秋田県では子供をまず勉強が分かる子供にする、そ

れを主眼にしてやっていて、秋田県の小学校の校長先生はなるべく250人以下の子供にしたい、大体していると。250人以下であれば校長先生が全部の生徒の名前と顔を覚えているというふうに秋田県の関係者は胸を張って答えている。

- ② **いじめ・不登校の解決** いじめとか不登校とか各学校には、いろいろ問題はあるが、子供というのは勉強が分るとそれで嬉しい。だから勉強が分かるのが第一だと思う。さっきから学力の二極化という話があるが、二極化というのは実は学力が下がってるということだと思う。普通何百人かいれば優秀な人というのは必ずいるので、学校がどういうことをやろうとその人たちは優秀になる。だから優秀な人は必ずいるので、それはいいので、そうでない人に学校が一生懸命面倒見て、勉強が分かるようにしてくれる。そういうのを待っている子供たちに手を差し伸べるのが大事なんじゃないか。

中学校の場合はまた全然別だと思う。中学校はそんなに小さい必要はないと思うが、小学校については、やっぱり校長先生が自分の学校の子供たちの顔も分からないような1,000人も子供が集まる小学校なんて。

今まで日本は貧しくて、教育にお金がかかれなくて、それでここにいる私たちもみんな1クラスに50人いるような学校生活を送ってきた。でも、世の中が豊かになって、子供も多様化してきたから、こんな切ない世の中にさらされている子供たちを助けてやるには、やっぱり一人一人の顔が見える学校であってほしい。先生方だけではなく校長先生もみんなで一人一人の子供を見つめる学校であってほしい。

そんなに人口も多くない、そんなに大都会でもない三条市が、大都会みたいな小学校を作る必要はないと思う。根本的な問題なので、ぜひ検討いただきたいと思う。いじめとか不登校とかは、勉強が分るとなくなる、それが人間だと思うがいかがか。

教育長

- ② 確かに、子供はどの子でも勉強は分かりたいし、分かることで喜びを感じ、学習の意欲が沸いてくる。私どももこのように思っている。学校教育においても、いかに子供が分かる授業を展開するかは、教壇に立っている教員の命題であり、このことを基本として頑張っている。

250人以下なら確かに、小規模、望ましい規模という表現もある。ただ、小規模は小規模の良さがあるし、大規模なら大規模の良さがある。逆にまたそういうところをいかに組み合わせせていくか、悪いところを少なくしていいところを生かしていくかということになる。

- ① 秋田に学べということについて、これは全国学力学習状況調査で秋田が大変良かったということで、私どももこれを参考にすることで、各学校で知識の活用ということで頑張っていたいので、これから期待していきたいと思っている。

発言者D

一中学区こそ、市長さんから来ていただけると思っていたが、今日おいでにならなかったのは本当に残念だ。

発言者B

ふれあいトークにも参加して、市長から直接話しを聞いている。この説明を受けるのは2回目になるが、再度説明を聞いてもやはり同じで、最初に小中一貫校ありきで、市民には「皆さ

んの声を聴くよ」という姿勢を見せているが、4、5年後には小中一貫校がスタートすることがぜんぜん変わらないで、最終報告を押し付けていると思った。

- ① **先進地視察の内容について** 先進地に一部の人が視察に行くのはいいかも知れないが、本当に三条市の子供たちに必要なことであれば、視察に行った人たちだけが「よかった、よかった」ではなく、皆さんに広めていくことが大事ではないのか。本当に良い事であるなら、急ぐことはないのではないのか。いったん白紙に撤回するくらいの気持ちになって進めていただきたい。

モデル校になっている第一中学校区の皆さんが集まっているわけだが、インターネットのホームページ、資料などを見ても具体的なイメージが湧かない。

- ② **小中一貫校建設について** 先ほど一貫校の校舎を10階建て、地下2階建てとかなの話があり、皆さんはびっくりされていると思う。ふれあいトークのときに、同じ事を市長さんに話したが、やはり同じような答えだった。中国の今回の地震があったときに、勉強している子供たちの学校が崩壊した。そのことを思ったときにこの第一中学校区というのは、地震もあったが水害で大変な被害があった地域であり、災害で建物に被害があったときに不安がある。「青写真はこれからで、やることはやる」ということでなく、もっと丁寧にやることは私は大事だと思う。小中一貫校を三高跡地に建てることになっているが、三高跡地をどうするかについては、この教育制度等検討委員会と同じように検討委員会をつくり検討してきた。ところが、小中一貫校を建てることにしたと、最後になって三高跡地の利用の検討が覆されたことは、非常に民主主義的ではない。手続的な面で、丁寧に行ってもらいたい。

- ③ **子供たちの教育について** 平成20年度で1,086人くらい居ると思うが、平成25年度でも50人くらいしか減らない。その中で1,400人もの子供たちを一同に会して本当に不登校や、子供たちが分かる教育ができるのか。

私の子どもが中学生のときに学校が荒れた。そのときに先生にお願いしたことは少人数の学級にしてもらい、三条市で先生を雇い入れ、本当に分かる授業をしてもらいたいという要求を出した。T. T (※)を付けてもらい進めてきてもらったことは本当によかったと思うが、やはり親としては、安心して子どもを任せたい。どの子も本当に楽しい学校だったと言えるようなそんな教育をしてもらいたいという思いだ。

「具体的なことはこれからです」というようなことでは困る。白紙撤回してもらい「自分たちはこのように考えている。でも皆さんどうでしょうか、もっと豊かにふくらませていきたいからもっと意見を」ということで4、5年先のことを考えずにやっていくことはできないのか。やはり最初から小中一貫校ありきなのか、確認したい。

(※) T. T…Team Teachingの略。一つの授業に複数の教師がかかわることで、よりきめ細かい指導を行うことをねらいとした授業形態。

学校教育課長

- ① 先進地視察の内容や、先進地から講師を招いて、聞かせてほしいとのことであるが、8月1日に、先進地で中心になっている方を招いて市内の学校教職員の研修を行う予定だ。また、実際に一貫校の管理職を招き、市内各校の校長、教頭の研修も予定されている。8月の末頃に小中一貫教育の第一人者といわれる早稲田大学の安彦先生をお招きし、理解を深めてもらうため、

教職員に向けての研修、講演を行う予定でいる。

教育部長

② 耐震の問題については、中国の信じられないような学校の倒壊の映像を見るにつけても、教育委員会としても緊急の課題であり、小中一貫に限らず力を入れなければならないと認識している。その上で、三高の跡地を活用してはどうかということが最終報告書に載っているが、第一中学校区のすべてが同じ校舎に入ることも含め、最終報告を検討している段階であるということを理解いただきたい。

③ 少人数の学級にしてもらいたいという話もあったが、ひとつのクラスサイズを小さくすれば一人一人のことがよく分かる。また、学校の規模についても異論の無いところである。逆に、少ないことによって困ることもあるが、丁寧に教えてほしいというのはそのとおりだと思う。

先進校の様子などを見てきたが、教室で小学校の先生が前で教えて、その後ろでその教科の中学校の先生が見守りながら、また適宜、子供たちに指導が行われていた。小学校の先生と中学校の先生がひとつの集団としてできることは、見かけではそんなに違いは無いかもしれないが、より丁寧に指導するということが可能になる。同じ1時間でも質が向上することが期待できる。また、いじめや不登校の問題などでも、1人の見方よりも2人、3人と複数の教員が子供たちを見ることによって、ひとりでは見落とししてしまうような子どもの微妙な心の動き、様子の変化ということにも気付くという機会も増えるという説明も受けている。限られた教員の数や、様々な資源を有効に生かすという意味では、小中一貫というシステムは、安心して子どもを任せられる学校になるための一つのやり方であると思う。信頼される学校づくりという意味では小中一貫に限らず、真摯に取り組んでいかなければならないと思っている。

教育総務課長

① 先ほど学校教育課長から講師派遣の話があったが、PTA、市民の方も対象と考えている。

この他にも11月以降になると思われるが、教育改革フォーラム等の開催も予定している。

発言者B

一貫校ありき 小中一貫校を進めていく立場の先生ばかりではないはず。疑問に思っている先生もいる。そういう方や、公開質問状を出されている方の声などを含め、ちゃんと本当に市民と討議をしていただきたい。最初に一貫校ありきでスタートしてはいけないということをお願いしたい。

教育部長

33校の小中学校で、各校ごとに、地域説明会とは別に教育委員会から同じ資料を示しながら丁寧に説明している。その際、質問時間を設け、反対という意見も少なからずある。様々な疑問な点など、丁寧に聴いているところであり、理解いただきたい。

また、関心のある先生方からは、地域説明会にも足を運んでいただき、意見をいただいている。こういったことも承知願いたい。

発言者A

議論を深めて進めるべき 最終報告の問題について焦点を絞って話をするということだが、市長が強力なリーダーシップを取るからやるというような発言に聞こえる。教育委員としての

意見はあったのか。モデル校として平成22年度から試行実施すると言っているが、あと1年半くらいしかない。そんなスケジュールの中でできるのか。

以前、三条高校敷地の問題については、平成8年度頃から話があり、できたのは平成12年頃だった。県の仕事のやり方であったが、何回も教育委員会に足を運んできた経過もある。このような現実があったのに、小中一貫校ありきという意見が皆さんに多いと思われるので、もう少し教育委員会としてきちんとした対応をしてほしい。学区ごとにもう1年くらいかけて説明会を開催してほしい。

朝日新聞に、地域の人達がPTAの方々と協力して給食費の徴収等をしているところがあると聞いている。このようにやるべきことが他にあるのではないかと。秋田県で小中一貫校をやっているところがあるのか。長崎県では小学校から高校まで一つのところがあり、高校ができたから勉強をしなくなったというような話が書かれていた。もう少し議論を深めていった中で、4年後にやるということではなく、特に一中学区については1年半で実施しようというのは難しいのではないかと。

教育長

新市になったときの教育基本方針を設定した段階で、三条市の教育の在り方について検討すべき方向性があったことから、教育委員長名で教育制度等検討委員会に諮問をした。その諮問を受けて教育制度等検討委員会が教育委員長に答申をした。教育委員会としてこれを重く受け止めていることがまず基本である。いただいた最終答申については重く受け止めており、内容について理解をいただくためにこのような説明会を開催している。

これから、いろいろな学校規模等の問題やスケジュールどおりいくのかも含めて、地域の方や保護者の方、学校関係者等とじっくりと考えていきたい。

最後にコミュニティスクールについては、教育制度等検討委員会でいただいた内容について、地域でいろいろな話し合いをしていくことで学校とつながりができて、ひとつのコミュニティスクールのようなものを作り上げていく手順になるのではないかと思う。だから、決して市長が言ったからやるということではなく、小中一貫校ありきで進めるのではなくて、これからはこれらを十分検討していきながら、丁寧な手続を踏んでいきたいと思っている。

発言者E

三高跡地利用の再考を 子どもたちは学校を選ぶことができないので、できればまたこのような説明会を開催してほしい。これだけしか集まらないということは、我々地域住民の意識が低いということで、地域住民としての自覚の問題だと思うので、できればもう1回呼びかけてもらいたい。

ただその中で、学校を三高跡地に持っていきたいと教育総務課長が言われたことで引っかかることがある。いろんな施設の面で1人当たりの面積比が全部クリアしていると言われたが、ほんとうにそうなのか伺いたい。

今まで三高の生徒は1,000人であった。小中一貫校になると1,600人程度になると思われるが、この数の物理的なことを考えただけで、今まで1,000人しかいなかった生徒が1,600人行くわけだが物理的に可能なかどうか。

跡地については今までいろんな検討をされていたのが、安易に決定されたような気がしてならない。三高跡地にはグラウンドと校舎の間に道路があり、子どもたちの安全ということで大きな問題になってくるので、三高跡地について再考してもらいたい。

教育委員長

三条市の行くべき方向性の合意が得られれば、すべての地域で事情が違うので、当然地域の皆さん方から細やかなところの話を聴いていかないといけないと思う。地域の話をお聴かないとか、無視したとか話があるが、聴いていかないといけないものではない。一中と同じことを三中ですらやってもだめだ。大崎ですらやってもだめだ。大崎は大崎の地域の事情もある。だから、これから個々のPTAと地域の皆さんとみんな集まって、通学距離が何キロもあるのでこうしようとか、こうしてほしいとか、いろんなことを出し合いながら、先生と地域とPTAとみんなでお知恵を出し合って最良のものを作り上げていかないといけない、ゴールインできないと思う。皆さん方の貴重な意見と協力は必然であると言いたい。

教育総務課長

今後の方向性については、今ほど委員長が言ったことにすべて尽きていると思う。先ほどから小中一貫校ありき、もう住民との対話はある程度で終わらせてしまうのではないかという疑問、拙速すぎるとか、あるいは第一中学校区に行ったときにいろんな課題が残っている、地域住民の方に押し付けるのかというようないろんな意見をいただいているが、私どもはこれが最初で最後の会ではないと思っている。委員長が言われたとおり、これからそういった具体的な課題について、本当に丁寧に議論を重ねていきたい。この姿勢はまったく嘘を言っているものではない。そうでなければできないということも委員長が言ったとおりだ。まさにこれから機会を設け、話を聴かせてもらえればと思っている。

個々具体的なことについては、この機会でなくとも、教育委員会へ直接足を運んでいただいてもいいし、またいろんな手法を考える中でPRしたいと思っているので、理解をいただきたい。

発言者 F

2年後に通う学校 子どもが条南小学校に今年の春入学して、子どもに「私、学校どこへ通えばいいの」と聞かれた。資料を見たら平成22年に小中一貫のモデル校ということになっているが、子どもにどこへ通えばいいのと聞かれて、答えることができなかったので参加した。3年生になったらどちらの学校に通えばいいのか、子どもに説明したいので簡単に教えてもらいたい。

教育総務課長

物理的な話をするが、誤解をされないように説明をさせていただく。

これから一体校を建築するという事になった場合でも、基本的なスパンというのは5年ほどかかると思っている。その中で先ほどからの繰り返しとなるが、地域のいろんな意見を聴きながらこの案で実施していくことになる。2年後は、条南小学校となる。

発言者 F

通う学校は小中一貫校になるのか、一中に行くのか。モデル校になったら小中一貫校に行く

んですよね。モデルであって白紙の状態になるのか、それとも先延ばしになるのか。

教育総務課長

まだ、はっきりとは言えないが、いろんな方々が議論した結果がこの形となっているので、今後具体的なものについては対話を繰り返しながらやっていきたい。

決定されても2年後は、建物がまだできていない。まずは連携型として、場合によっては条南小学校で中学校の先生が出前授業をしたり、あるいは条南小学校から一中へ行って授業を受けたりといった方向になる。

発言者G

一中は連携型のモデルか これでは一中のモデルケースというのは、一体型のモデルケースでなくて、連携型のモデルケースではないか。

学校教育課長

モデル校には3つのパターンがあるという話をしたが、義務教育9年間の指導をどうしていくのか。今、ちょうど学習指導要領改訂の話が出ているが、今までは小学校は小学校、中学校は中学校やっていたものを、9年間の中で先生同士が頭をすり合わせながら考えようと、教育活動の勉強をしようというものだ。

一中学区は、1つの校舎に1年生から中学3年生まで入る中で考えようととらえてもらえればいだろうし、三中の場合はモデルの併用型か連携型ということになるので、9年間の中で小5、小6、中1の3年間を行ったり来たりする。ときには週に1時間か2時間、校舎を移動する中で、9年間の学習指導、教育課程を編成してほしい。モデル校以外のところは9年間の中で校舎は別々だけれども、どこまで連携ができるかということイメージしながら学習指導要領を2年後に作らなければならない。23年にスタートするので、そういうふうにとらえてもらえればと思う。

発言者G

一中学区一体型モデルの進め方 今聞きたかったのは、2年後にモデルケースとして一中学区は一体型と言っておきながら一体型の検討をしていないということだ。検討していないのに2年経った後に正式に一体型がスタートするのは、親としてすごく不安が残る。23年に始まるからそれに向かって動かなければならないと言っているけれども、これから皆さんで話し合いをしながら決めていきたいと思いますと言っている。もう24年に決まっているから、そこに向けて話をしている。ちょっと矛盾していると思う。

一体型は連携型と非常に違う。連携型というのは、まだすごくいろんな融通とか余白が残っていて、いかようにでもなるけれども、一体型というのは1つに収められてしまうからいろんなデメリットが出てくると思う。

他の中学校区では、1校の小学校しかなくてそのまま全員中学校持ち上がるというのがある。その学区では小学校の時の友達関係がいやな子どもは、中学生になっても全然リフレッシュされずにそのまま持ち上がるという悩みを抱えていると聞いたことがある。

だから、デメリットがいろいろあり、さらに一体型を試す期間もなくて、ただ連携型でやって期間が来たらすぐそこから一体型が始まるというのは、非常に問題があると思う。これから

皆さんと話し合っただけで進めていく方向性であるならば、一中学区で一体型というのは最初からまた皆さんの意見を聴いて進めほしい。

教育部長

建物を建ててからモデルということも考えられるが、最初から完璧な形でスタートするという事はなかなか難しい。一中と三中のやり方は、先ほど課長から説明したように、最終的に一体型を想定しているのか、そうでないのかは、おのずと研究内容が違ってくると思っている。そういったことを考えながら、いただいた意見をしっかりと受け止めながら、今後検討していきたい。

発言者H

教師にも分からない小中一貫 今年、1年生を入れた親である。先生方を信頼して子どもを預けているが、担任の先生などに小中一貫校の話をして、分かりませんという答えが返ってくる。そこが私は不思議だ。今の説明では、先生にも地域説明会と並行して話をしている。保護者としては、先生がこういうふうになるということで、一丸となっていれば子どもを預けるにも安心だ。でも先生方もよく分からないのに、三条市はこういうふうに行くと言われることをどう考えているのか。

学校教育課長

唯一つなりのある先生に聞いても分からないということは、そのとおりだと思う。今、最終報告案が出されて地域や先生方の説明に入っている最中である。そこで、先生方の理解をより深めてもらうために先進地域の方を3回呼び出して研修会を予定している。補足として教育総務課長からPTAや地域の方にも案内をしたいというような話があった。また、この方向が具体的になったら、モデル校の先生方から先進地域に行ってもらうことも、理解を深めてもらうために当然必要だと思う。

今は答申されたものを説明させてもらっているのだから、聞かれても分からないということは正直なところだと思っている。確かに、不安だという気持ちはよく分かるが、これが浸透したら今度は先生方から学校だより等で情報が提供されるのではないかと考えている。